

第 93 回 幹 事 会

平成 22 年 4 月 6 日

日 本 学 術 会 議

第93回幹事会議事次第

日時：平成22年4月6日（火）10：00

I 非公開審議事項

1 委員会関係

提案1 分野別委員会分科会における特任連携会員の任期延長

提案2 人間の安全保障とジェンダー委員会設置要綱の一部改正及び特任連携会員の任期の延長

2 その他

II 審議事項

1 提言等

提案3 提言「受動喫煙防止の推進について」

2 国際会議関係

提案4 アジアの老齢人口に関するカンファレンスの企画委員会への会員の派遣

3 シンポジウム等

提案5 日本地球惑星科学連合2010年大会国際セッション「Urbanization and Global Environmental Change (都市化と地球環境変化)」

提案6 公開シンポジウム「植物を利用したグリーンイノベーションに向けて」

提案7 公開シンポジウム「創薬の促進を目指したトランスレーショナルリサーチの推進における医療系薬学研究者の役割」

提案8 公開シンポジウム「ビスホスホネート系薬剤に起因した顎骨骨髄炎・顎骨壊死の現状と対策」

提案9 公開シンポジウム「実定法学の基礎法学－第4回総合基礎法学シンポジウム」

提案10 公開シンポジウム「新時代の昆虫科学を拓く」

III その他

資料2

第93回幹事会（4月6日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴木 興太郎

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	永宮 正治

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
2 機能別委員会の開催とその議題	2
3 分野別委員会の開催とその議題	2
4 サイエンスカフェの開催	6
5 総合科学技術会議報告	6
6 慶弔	7

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
3月25日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
3月26日(金)	第14回国際内分泌学会議(京都) ※主催者挨拶	金澤会長、竹林局長
4月1日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
第36回全国語学教育学会年次国際大会の後援	特定非営利活動法人全国語学教育学会代表者	第一部
特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会第28回年次大会の後援	特定非営利活動法人日本臨床歯周病学会理事長	第二部

第2. 各部・各委員会報告

1 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 日本の展望委員会 起草分科会 (第14回) (3月25日)

- ①「日本の展望－学術からの提言2010」(案)の確認
- ②「日本の展望－学術からの提言2010」に基づく「勧告」(案)の検討
- ③「日本の展望－学術会議からの提言2010」リーフレットの作成について
- ④今後の進め方について ⑤その他

2 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学と社会委員会 科学力増進分科会 (第12回) (3月31日)

- ①サイエンスアゴラについて ②サイエンスカフェについて
- ③今期活動について ④その他

3 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 法学委員会 「不平等・格差とセーフティ・ネット」分科会 (第4回) (3月26日)

- ①分科会報告書について ②分科会委員長交代について ③その他

(2) 法学委員会 「IT社会と法」分科会 (第1回) (3月26日)

- ①今後の活動計画について ②その他

(3) 社会学委員会・経済学委員会合同 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第5回) (3月26日)

- ①報告事項 学術会議の動向 ②審議事項 シンポジウムの準備状況
- ③その他

(4) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第8回) (3月27日)

- ①今後の委員会の方向「まとめ方」について ②その他

(5) 史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会 (第7回) (3月29日)

- ①新しい世界史の構想について (高山 博氏、羽田 正氏)
- ②①の報告を受けて、学分科会における歴史教育のあり方について討論 (いわゆる分野別保証の問題を視野に入れながら)
- ③今後の分科会の運営について (アジア研究・対アジア関係に関する分科会との

協力関係を含め) ④その他

(6) 言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
アジア研究・対アジア関係に関する分科会(第4回)(3月29日)

- ①新しい世界史の構想について(高山 博氏、羽田 正氏)
- ②①の報告を受けて、学分科会における歴史教育のあり方について討論
(いわゆる分野別保証の問題を視野に入れながら)
- ③アジア研究・対アジア関係に関する分科会の今後の予定について ④その他

(7) 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会(第7回)(3月30日)

- ①シンポジウムについて ②その他

(8) 史学委員会 文化財の保護と活用に関する分科会(第3回)(3月30日)

- ①文化財保護法のあり方と現状(菅谷 文則連携会員による発表)
- ②今後の活動について ③その他

(9) 法学委員会 「公の構造変化」分科会(第6回)(3月31日)

- ①報告
 - 1) 磯部委員
 - 2) 多賀谷委員
 - 3) 浜川委員
- ②その他

(10) 地域研究委員会 地域情報分科会(第3回)(3月31日)

- ①「地域の知」の資源のグローバルな構造化と共有化プラットフォーム
- ②2010年の活動計画 ③その他

(11) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同 高校地理歴史科
教育に関する分科会(第7回)(4月4日)

- ①テーマ「高校地歴教育と小中社会科教育の接合はどうあるべきか」
報告者：土屋 武志氏(参考人)
 - 「社会科歴史の基礎をいつどのように育てるか」
井田 仁康氏(連携会員)
 - 「小・中学校社会科地理と高校地歴科地理との接合
ーその変化の流れと課題ー」

- ②その他

(12) 史学委員会(第5回)(4月5日)

- ①各分科会活動報告
- ②日本の展望委員会・史学委員会報告の処理(学会等との協議の場の設定等)
- ③分野別「学士力」保証の取り組み(審議体制の整備等)

- ④その他（史資料問題シンポ等）

第二部担当

（１）健康・生活科学委員会 看護学分科会（第７回）（３月２６日）

- ①厚労省チーム医療のあり方検討会「特定看護師」（仮称）素案発表とその後の経緯について
②いのちの教育班：看護学教育学会企画シンポジウムについて
③看護学分科会２１期からの発信内容（提言等の検討）について
④その他（今後の予定、第８回日程調整など）

（２）農学委員会 農業経済学分科会（第６回）（３月２７日）

- ①提言の検討 ②今後の分科会の計画について ③その他

（３）農学委員会・食料科学委員会合同 農芸化学分科会（第２回）（３月２９日）

- ①本年度の活動経過と今後の活動について ②その他

（４）健康・生活科学委員会 生活科学分科会（第１１回）（３月２９日）

- ①３月４日公開講演会の総括 ②次回公開講演会について ③その他

**（５）基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同
自然史・古生物学分科会（第３回）（３月３０日）**

- ①「生物多様性の保全と持続可能な利用～学術からの提言～」について
②「地球に生きる素養を身につける『地球を好きになる』教育のすすめ」提言案について ③地域博物館のあり方と活動振興について
④統合生物学委員会・IUBS分科会活動状況について ⑤今度の活動について
⑥その他

**（６）心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学
委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会
成育空間に関する政策提案検討小委員会（第８回）（３月３０日）**

- ①モニタリング調査結果の報告案 ②次年度予定の政策提言について
③その他

**（７）農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会（第３回）
（３月３１日）**

- ①関連会議について ②分科会委員の新加入について
③分科会設置期限の延長について
④石灰質アルカリ土壌耐性イネの開発に関するケーススタディー ⑤その他

(8) **基礎生物学委員会** (第4回) (4月5日)

- ①今後の活動方針 ②大型研究の進展 ③IUBS分科会武田洋幸委員の追加
- ④その他

第三部担当

(1) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会** (第3回) (3月25日)

- ①小委員会報告 ②「計算科学シミュレーションシンポジウム」について
- ③その他

(2) **第三部 理科・数学・技術に関する初等中等教育検討分科会** (第2回) (3月29日)

- ①委員の追加について ②検討する内容について 論点整理
- ③今後の進め方について ④その他

(3) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会** (第4回) (3月29日)

- ①第21期・第3回総合工学委員会の報告 ②公開講演会の計画
- ③今後の活動の進め方 ④その他

(4) **地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会** (第5回) (3月30日)

- ①高校生向けシンポジウムのやり直し ②陸域緑辺海域提言のフォローアップ
- ③地球人間圏科学について(地球環境問題、大規模災害、土地利用問題、プロジェクトの検討を含む)
- ④地理学・地学・海洋科学等の振興(小・中・高・大)
- ⑤日本の展望 ⑥その他

(5) **土木工学・建築学委員会 大規模地震災害総合対策分科会** (第6回) (3月31日)

- ①「大規模地震災害の影響評価と情報発信」の中間報告と審議
- ②「情報の収集と共有化」の中間報告と審議
- ③「理学・工学・社会科学研究と国・地方の政策の連携」の中間報告と審議
- ④「社会制度、国づくり」の中間報告と審議
- ⑤「国際貢献と若手も含めた人材育成」の中間報告と審議
- ⑥「学際研究、複合災害を含めた学協会との連携」の中間報告と審議

(6) **総合工学委員会 総合工学企画分科会** (第4回) (4月5日)

- ①「総合工学の展望2010」について ②総合工学シンポジウムについて
- ③各分科会経過報告と今後の活動予定について ④その他

4 サイエンスカフェの開催

(1) 3月26日(金) 19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：重粒子癌治療における放射線利用と放射線防護

講 師：丹羽 太貫（日本学術会議連携会員、
放射線医学総合研究所重粒子医科学 センター副センター長）

ファシリテーター：柴田 徳思（日本学術会議連携会員、
日本原子力研究開発研究機構J-PARCセンター 客員研究員）

5 総合科学技術会議報告

なし

2. 専門調査会

○基本政策推進専門調査会（第6回） 3月25日

- (1) 第4期科学技術基本計画骨子（案）について
- (2) その他

○生命倫理専門調査会（第61回） 3月29日

- (1) 諮問第11号「ヒトES細胞の使用に関する指針の改正について」
諮問第12号「ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針の改正について」
について
- (2) 国際機関での生命倫理を巡る動きについて（報告）
- (3) その他

○基本政策推進専門調査会 環境分野PT（第10回） 3月29日

- (1) 課題
 - 1) 「平成21年度の我が国における地球観測の実施計画」の
フォローアップについて
 - 2) 平成21年度の分野別推進戦略（環境分野）のフォローアップについて
- (2) 報告事項
 - 1) 平成22年度概算要求における科学技術関係施策（環境分野）の優先度
判定結果について
 - 2) 科学技術連携施策群「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・
活用のための研究開発」活動報告について
 - 3) 社会還元加速プロジェクト「環境エネルギー問題等の解決に貢献する
バイオマス資源の総合利活用」活動報告について
 - 4) バイオマス活用推進基本計画について

5) 気候変動適応型社会の実現に向けた技術開発の方向性立案のための
タスクフォース活動報告（最終報告書）について

○基本政策推進専門調査会 ものづくり技術PT（第9回）

3月30日

- (1) 「分野別推進戦略」平成21年度フォローアップについて
- (2) ものづくり技術分野の中間フォローアップ後の状況変化について
- (3) ものづくり技術分野、平成22年度優先度判定の報告
- (4) その他（報告・事務連絡等）

○基本政策推進専門調査会 フロンティアPT（第10回） 3月31日

- (1) 平成21年度フォローアップの実施について（分野別推進戦略）
- (2) 平成22年度概算要求における化学技術関係施策の優先順位付けの結果について
- (3) 話題提供：宇宙分野と海洋分野の連携について

3.総合科学技術会議有識者議員会合

・ 4月 1日 ＊会長出席

6 慶弔

○ ご逝去

大田 直子（おおたなおこ） 53歳 3月28日 第20～21期連携会員
首都大学東京教授

審 議 事 項

		頁
Ⅱ 審議事項		
1 提言等	提案3 提言「受動喫煙防止の推進について」	1
2 国際会議関係	提案4 アジアの老齢人口に関するカンファレンスの企画委員会への会員の派遣	2
3 シンポジウム等	提案5 日本地球惑星科学連合2010年大会国際セッション「Urbanization and Global Environmental Change（都市化と地球環境変化）」	7
	提案6 公開シンポジウム「植物を利用したグリーンイノベーションに向けて」	9
	提案7 公開シンポジウム「創薬の促進を目指したトランスレーショナルリサーチの推進における医療系薬学研究者の役割」	11
	提案8 公開シンポジウム「ビスホスホネート系薬剤に起因した顎骨骨髄炎・顎骨壊死の現状と対策」	13
	提案9 公開シンポジウム「実定法学の基礎法学－第4回総合基礎法学シンポジウム」	15
	提案10 公開シンポジウム「新時代の昆虫科学を拓く」	16

3	
幹事会	9 2

提 案

提言「受動喫煙防止の推進について」

- 1 提 案 者 健康・生活科学委員会委員長、歯学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「受動喫煙防止の推進について」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

4	
幹事会	93

提 案

アジアの老齢人口に関するカンファレンスの企画委員会への会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、日本学術会議から秋山弘子委員（第一部会員）を派遣すること
- 3 提案理由 アジアの老齢人口に関連するカンファレンスは、米国の国立科学アカデミー（NAS: US National Academy of Sciences）からの提案である。NASと日本学術会議とは、共に G8 学術会議のメンバーアカデミーであり、インターアカデミー・カウンシル（IAC: InterAcademy Council）等の執行部メンバーとして、これまで深い協力関係を築いてきた。また、日本学術会議はアジア学術会議を主催していることにも関連し、当該カンファレンスに日本学術会議として対応することは非常に意義がある。そのため、本企画委員会に以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 秋山 弘子（第一部会員、国際委員会委員）
- 5 会議期間 平成22年5月3日（月・祭日）～5月4日（火・祭日）
- 6 派遣場所 ニューデリー（インド）
- 7 開催趣旨 NAS の人口委員会の委員長（Director of the Committee on Population）である Dr. Barney Cohen 氏により、アジア地域における老齢人口に関連するカンファレンスが提案されている。アジア地域には、中国及びインドといった、世界人口において大きな割合を占める国々が含まれている。そうした国々でも近い将来に、高齢化が進むことが予想されている一方で、アジア地域における人口問題に関する調査は、必ずしも充分に行われていない。そうした中、世界でも群を抜く長寿国である日本における老齢人口の専門家も交え、アジア地域における老齢人口に関連するカンファレンスについてのアイデアを固めることが本会合の趣旨である。なお、本会合はインド国立科学アカ

デミー (Indian National Science Academy) がホストとなる。会合の概要等については、添付別紙を参照のこと。

U.S. National Academy of Sciences

In collaboration with:

**Indian National Science Academy
Chinese Academy of Social Sciences
Indonesian Institute of Sciences
Science Council of Japan**

**Joint US-Asian Academy Conference on the Challenges of
Population Aging**

**Preliminary Planning Meeting (*Tentative Agenda*)
Indian National Science Academy, New Delhi
May 2010**

May 3, 2010

9:00 am – 9:15 am	Welcome statement <i>Professor P.N. Tandon</i> <i>Past President, Indian National Science Academy</i> - o Introductions - o Goals for this meeting
9:15 am – 9:45 am	Overview and objectives of Aging in Asia collaboration <i>Dr. Barney Cohen</i> <i>Director, Committee on Population</i> <i>U.S. National Academy of Sciences</i>
9:45 am – 10:30 am	General discussion – overview and objectives of Aging in Asia collaboration
10:30 am – 10:45 am	BREAK
10:45 am – 11:00 am	State of aging research in India <i>Representative from the Indian National Science Academy</i>
11:00 am – 11:15 am	State of aging research in China <i>Representative from the Chinese Academy of Social Sciences</i>

11:15 am – 11:30 am	State of aging research in Japan <i>Professor Hiroko Akiyama</i> <i>University of Tokyo; University of Michigan</i> <i>Member, Science Council of Japan</i>
11:30 am – 11:45 am	State of aging research in Indonesia <i>Professor Mayling Oey-Gardiner</i> <i>University of Indonesia</i> <i>Member, Commission on Social Sciences,</i> <i>Indonesian Institute of Sciences</i>
11:45 am – 12:30 pm	General discussion – common interests in aging research among our various academies
12:30 pm – 1:30 pm	LUNCH
1:30 pm – 1:45 pm	Overview of the December conference <i>Dr. Malay Majmundar</i> <i>Senior Program Associate, Committee on Population</i> <i>U.S. National Academy of Sciences</i>
1:45 pm – 3:00 pm	General discussion – planning for the December conference - o Structure of the meetings - o Major themes - o Papers - o Audience - o Engaging policymakers - o Roles of the various academies
3:00 pm – 3:15 pm	BREAK
3:15 pm – 4:30 pm	General discussion – planning for the December conference (continued)
4:30 p.m.	ADJOURN

May 4, 2010

9:00 am – 9:15 am	Overview of inter-academy consensus document <i>Dr. Malay Majmundar</i>
9:15 am-10:30 am	General discussion—next steps on consensus document - o Audience/desired impact - o Length/level of detail - o Major messages - o Drafting and review process - o Input from the various academies
10:30 am –10:45 am	BREAK
10:45 am – 12:00 pm	General discussion—next steps on consensus document (continued)
12 pm – 1 pm	LUNCH
1 pm – 2 pm	Wrap-up discussion - o Review of decisions made - o Tasks ahead - o Timetable - o Any other business
2 pm	ADJOURN

5	
幹事会	93

提 案

日本地球惑星科学連合 2010 年大会国際セッション

「Urbanization and Global Environmental Change (都市化と地球環境変化)」の開催について

1. 提案者 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP 分科会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP 分科会
2. 共 催： (社)日本地球惑星科学連合、(社)日本地理学会、(社)環境科学会
3. 日 時： 平成 22 年 5 月 23 日（日） 13 時 45 分～17 時
4. 場 所： 幕張メッセ国際会議場 101 号室（〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 2-1）
5. 委員会等の開催： IHDP 分科会を開催する
6. 開催趣旨：

IHDP（地球環境変化の人間の側面研究計画）は国際科学会議（ICSU）と国際社会科学評議会（ISSC）の共同プロジェクトであり、2007 年からは国連大学の重点プログラムにも指定され、国際的な地球環境研究の一つの核として、存在感を増している。わが国でも関連する研究は少なくないが、国際的な連携はこれまで必ずしも十分ではなく、また地球諸科学への浸透も限られていた。そこで地球諸科学の専門家や学生など数千名が集う地球惑星科学連合 2010 年大会の機会を利用し、IHDP の主要テーマの一つである都市化を取り上げ、特にそれと地球環境変化および関連する諸問題との関わりに焦点を当てつつ、地球科学、地理学、防災、人文社会科学を含む地球人間圏科学の広い視点から議論するために、標記の国際セッションを開催することを計画した。IHDP 分科会委員のほか、国内の関連プロジェクトの関係者や海外からの参加者を含め、15 件の口頭・ポスター発表を予定している。

7. プログラム：

オーラルセッション

- 13:45-14:00 開会とキーノート：都市化、IHDP、地球人間圏科学
氷見山幸夫(日本学術会議連携会員、IHDP 分科会委員長 北海道教育大学教授)
- 14:00-14:15 アジア沿岸地域における地下環境の持続的利用と未来可能性
谷口真人(総合地球環境学研究所教授)
- 14:15-14:30 2004 年福井水害を事例とした都市化地域の水害
春山成子(日本学術会議連携会員、地理教育分科会委員 三重大学教授)
- 14:30-14:45 Urban development and environmental change in Indian mega cities – case of Delhi
R.B. Singh
- 14:45-15:00 アジア・オセアニアにおけるガーデンシティ構想とグリーンベルト構想の系譜
山本佳世子(IHDP 分科会委員、電気通信大学教授)
- 15:00-15:15 アジアの7大都市における都市温暖化の数値シミュレーション
一ノ瀬俊明(国立環境研究所上席研究員)
- 15:15-15:30 郊外における新開発および居住者の特性：幕張ベイタウンを事例として
久保倫子
- 15:30-15:45 グローカルな視点から見た都市化と災害－阪神淡路大震災の事例
碓井照子(日本学術会議第一部会員、奈良大学教授)
- 15:45-16:00 What drives urbanization in Africa?
Ademola Braimoh
- 16:00-16:15 東京首都圏の急速な都市化による気候変化
三上岳彦(日本学術会議連携会員・地理教育分科会委員、帝京大学教授)
- 16:15-16:30 LUCC in Java Island: Inconsistencies on Land Use/Cover Classification and Planning
Ernan Rustiadi
- 16:30-16:45 バイオ炭を使った気候変動の緩和のためのカーボンマイナスの試みに関する実証的研究
鐘ヶ江秀彦(IHDP 分科会委員、立命館大学助教授)
- 16:45-17:00 閉会 碓井照子

ポスターセッション(終日)

Siyanee Hirunsalee	The Influences of Architectural Transformation Caused by Dynamic of Urbanization on Flood Disaster in the Ayutthaya Isla
Eun byul Kim	A Synoptic Meteorological Study of the Occurrences Extreme Heat that Impact Human Health
伊東瑠衣	大阪湾の埋立がもたらした京阪神地域の熱源と冷源

8. 関係部の承認の有無： 第一部承認

9. 申し込み方法・連絡先： 事前の申し込みは不要です。
連絡先：北海道教育大学 氷見山幸夫
(tel. 0166-59-1283, e-mail: himiya@asa.hokkyodai.ac.jp)

6	
幹事会	93

提 案

公開シンポジウム

「植物を利用したグリーンイノベーションに向けて」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、総合生物学委員会委員長、
農学委員会委員長、
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・総合生物学委員会・農学委員会
合同植物科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組
換え作物分科会
2. 共 催：日本植物学会、日本植物生理学会、日本植物細胞分子生物学会、
日本育種学会（調整中）
3. 後 援：文部科学省（調整中）
4. 日 時：平成22年5月29日（土）13：00～17：20
5. 場 所：日本学術会議講堂
（分科会とシンポジウム控え室として、会議室3室を使用）
6. 分科会の開催：分科会開催予定
7. 開催趣旨：
本シンポジウムの目的は、長期的な人間社会の発展に資するため、日本の
生命科学コミュニティにおいて「植物科学を用いたイノベーション」に
繋がる研究活動についての理解を増進し、議論を興隆させることにある。
その目的のため、諸分野の相互理解を深め研究の将来像を描くと共に、今
後の重点研究課題・融合研究課題について議論を進めるべく、幅広い分野

の指導的研究者を集め、ここにシンポジウムを開催するものである。

8. 次 第：

プログラム（案）

5月29日（土）

13:00－13:20 挨拶

13:20－14:40 関連各分野の展望・取り組み

（4 演題、各演題 20 分：発表 13 分、討論 7 分）

14:40－15:00 休憩

15:00－16:40 グリーンイノベーション、植物研究が貢献できること

（4 演題、各演題 25 分：発表 15 分、討論 10 分）

16:40－17:20 パネル討論とまとめ：植物を利用した

グリーンイノベーションに向けたアクションプラン

講演予定者（調整中）

【挨拶】

黒岩 常祥 [日本学術会議]（基礎生物科学委員会委員長）

磯貝 彰 [奈良先端科学技術大学院大学長]（日本学術会議会員）

【展望と取り組み】

篠崎 一雄 [理研植物科学研究センター長]（日本植物生理学会会長）

岡田 清孝 [自然科学機構基礎生物学研究所長]（日本学術会議会員）

福田 裕穂 [植物科学分科会委員長・日本学術会議連携会員]

（日本植物学会会長）

江面 浩 [筑波大学遺伝子実験センター]（日本植物細胞分子生物学会会長）

【植物研究の貢献、その具体的事例】

微生物光合成 福澤秀哉 [京大大学生命科学研究科]

バイオリファイナリー 菊地淳 [理化学研究所]

木質バイオマス 出村 拓 [奈良先端科学技術大学院大学]

草本バイオマス 牧野 周 [東北大学]

【パネル討論予定パネラー】

上記講演者および文部科学省関連部局担当官、農林水産省関連部局担当官、
経済産業省関連部局担当官、司会、松岡信[名古屋大学]

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

7	
幹事会	93

提 案

公開シンポジウム「創薬の促進を目指したトランスレーショナルリサーチの推進における医療系薬学研究者の役割」の開催について

1. 提案者 薬学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会、日本薬学会
2. 後 援：日本医療薬学会、日本薬剤学会（予定）、日本薬物動態学会
3. 日 時：平成22年6月11日（金）9：45～17：30
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：分科会開催予定
6. 開催趣旨：

日本学術会議薬学委員会では「6年制教育の充実」と「日本の創薬力向上」の二点を主な活動指針としております。化学・物理系薬学分科会では平成21年12月4日にシンポジウムを開催し、「日本の創薬力向上」の実現を図るための方策について産・官・学の立場から議論がされました。

新規化合物の設計と細胞や動物を用いたスクリーニング試験、引き続き安全性試験などは創薬の初期に不可欠な非臨床試験です。しかし、「創薬力」を向上させるためには、創薬概念をヒトでも有効であることを検証する（POC）ための臨床への橋渡し試験（トランスレーショナルリサーチ）は医薬品開発のリスクを大きく軽減する上で重要であり、これを実現するために早期探索的臨床試験が注目を集めております。特にヒトを対象とした、マイクロドーズ臨床試験は動態評価に、分子イメージングは疾患の診断・治療効果判定に有効と考えられ、その実施体制の確立に期待が寄せられております。医薬品の排泄経路や代謝マップの解析も、薬物間相互作用や遺伝子多型など個人差の影響を受けにくい優れた医薬品を開発するための重要な方法論として認識されております。こうした検討の上に、標的臓器に選択的に薬を送達させる技術であるドラッグデリバリーシステム（DDS）技術などが付加されることにより、優れて有効かつ安全な医薬品の開発が実現するものと思われます。

今回のシンポジウムでは、「創薬力の向上」を医療系薬学の視点に立ち、「創薬の促進を目指したトランスレーショナルリサーチの推進」をテーマとして、生体と相互作用し治療効果を示す化学物質を、有効性・安全性が科学的、社会的に担保された医薬品に仕立てあげ社会に供給する医療系薬学領域の科学や技術について議論することを目的に企画しました。

7. 次 第

9:45-10:00 開会あいさつ

松木則夫（東京大学大学院薬学系研究科教授、日本薬学会会頭、
日本学術会議連携会員）

橋田 充（京都大学大学院薬学研究科教授、日本学術会議会
員・同薬学委員会委員長）

シンポジウム

10:00-10:30 我が国の「マイクロドーズ臨床試験実施のガイドライン」の特徴と将来への期待

大野 泰雄（国立医薬品食品衛生研究所副所長）

10:30-11:00 早期探索的臨床試験の現状と将来～科学的立場からの検証と提案～
山下伸二（摂南大学薬学部教授）

11:00-11:30 PET イメージングと創薬

谷内一彦（東北大学医学系研究科教授）

11:30-12:00 代謝酵素が関与する薬物間相互作用の予測法

鈴木洋史（東京大学医学部附属病院薬剤部教授、日本学術
会議連携会員）

12:00-13:30 昼休憩（分科会を開催）

13:30-14:00 トランスポーターに関わる FDA 白書；薬物間相互作用を中心に

杉山雄一（東京大学薬学系研究科教授、日本学術会議連携
会員）

14:00-14:30 薬物動態関連遺伝子のファーマコジェノミクス

東 純一（兵庫医療大学薬学部教授）

14:30-15:00 薬効・毒性関連遺伝子のファーマコジェノミクス

村松正明（東京医科歯科大学難治疾患研究所教授）

15:00-15:15 休憩

15:15-15:45 代謝物に由来する副作用を少なくするために

笛木 修（医薬品医療機器総合機構 新薬審査第5部主任
専門員）

15:45-16:15 開発段階における製剤開発戦略、および剤形追加の戦略

伊吹リン太（アステラス製薬㈱執行役員）

16:15-16:45 臨床開発におけるバイオマーカーの利用

中村治雅（国立精神・神経センター病院神経内科）

16:45-17:15 創薬化学研究者と医療系薬学者の接点

長瀬 博（北里大学薬学部教授）

17:15-17:30 まとめ

辻 彰（金沢大学名誉教授、日本学術会議連携会員・同薬学
委員会医療系薬学分科会委員長）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

8	
幹事会	9 3

提 案

公開シンポジウム「ビスホスホネート系薬剤に起因した顎骨骨髄炎・顎骨壊死の現状と対策」の開催について

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、日本口腔科学会
2. 後 援：日本医歯薬アカデミー（予定）
3. 日 時：平成 22 年 6 月 25 日（金）16:30-19:00 （2 時間 30 分）
4. 場 所：札幌プリンスホテル
5. 分科会：シンポジウム終了後に病態系歯学分科会を開催
6. 開催趣旨：

我が国が高齢社会を迎え、骨粗鬆症や悪性腫瘍の患者が増加している中で、ビスホスホネート系薬剤の使用は増加の一途をたどっている。ビスホスホネート系薬剤は、骨粗鬆症患者における骨折の予防、あるいはがん患者における骨転移の予防や疼痛の緩和に優れた臨床効果を示すが、まれに顎骨に骨髄炎や壊死を生じることがあり、患者の QOL の面から大きな問題となっている。ビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死に関しては、平成 20 年 4 月 22 日に日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会によりシンポジウムが開催され、内科的・整形外科的立場から我が国におけるビスホスホネート系薬剤の使用状況が、また歯科・口腔外科の立場から顎骨壊死の状況が報告され、今後の対応について議論された。その後、歯科領域を中心に、骨壊死の発症や経過、発症頻度、病態、治療法と治療成績などに関する研究が進み、多くの事実が明らかになってきた。しかし、未だ真の発症メカニズムは明らかではなく、適切な診断法や最適な治療指針も示されていない。本シンポジウムにおいては、最新の知見を提供し、今後の研究の進め方、ならびに現時点で最適と考えられる診断法や治療法、さらには予防法について論議する。

7. シンポジウム次第

○主催者側挨拶 戸塚靖則（北海道大学教授、日本学術会議会員、
第 64 回日本口腔科学会総会学術大会会長）

○趣旨と進行の説明

座長：戸塚靖則（北海道大学教授、日本学術会議会員）

高戸 毅（東京大学教授、日本学術会議会員）

○講演

生化学的・薬理学的側面

米田俊之（大阪大学教授、日本学術会議会員）

形態学・病理学的側面

山口 朗（東京医科歯科大学教授、日本学術会議連携会員）

画像診断学的側面

田口 明（松本歯科大学教授）

臨床病態学的側面

浦出雅裕（兵庫医科大学教授）

治療学的側面

松尾 朗（東京医科大学准教授）

山崎 裕（北海道大学講師）

永田俊彦（徳島大学教授）

○質疑と討論

○閉会の挨拶 高戸 毅（東京大学教授、日本学術会議会員）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

9	
幹事会	93

提 案

公開シンポジウム「実定法学の基礎法学―第4回総合基礎法学シンポジウム」 の開催について

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議法学委員会、基礎法学系学会連合
2. 日 時 平成22年7月10日（日）13：00～17：30
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 開催趣旨

法律学が実践的に社会に関わる主要な分野は、実定法学（現行法についての法解釈学）であるが、そのあり方は各国の歴史・伝統・社会的条件・法文化などに規定された「個性」を有している。この「個性」を歴史的、哲学的、比較的、かつ、社会学的に、つまり基礎法学の視点から分析し、提示することを通じて、実定法学のこれからのあり方を考えることを狙いとする。司法改革が進められる中で、社会のなかの法律家のあり方、したがって法曹養成のあり方が重要な社会的テーマになっており、本シンポジウムはこれについて市民との対話を広げるための時宜にかなった取組みとして位置づけている。

5. 次 第

- 開会挨拶 広渡清吾（専修大学法学部教授・日本学術会議会員）
 司会 嶋津 格（千葉大学法経学部教授・日本学術会議連携会員）
 趣旨説明 水林 彪（一橋大学大学院法学研究科教授）
 報告者 小川浩三（桐蔭横浜大学法学部教授）
 尾崎一郎（北海道大学大学院法学研究科教授）
 亀本 洋（京都大学大学院法学研究科教授・日本学術会議連携会員）
 コメンテーター
 吉田克己（北海道大学法学研究科教授・日本学術会議連携会員）
 西谷 敏（近畿大学法科大学院教授）
 総合討論
 閉会挨拶 滝澤 正（上智大学法学研究科教授・日本学術会議連携会員）

6. 関係部の承認の有無：第一部承認